

① 環境学習講座



● 目的

児童の段階から、日常生活で発生するごみを題材に海洋汚染との関わりを学習し、環境に配慮する意識の定着を目的に実施しています。

● 場所／日時

なかがわ水遊園おさかな研究室
(不定期（1日2、3回実施）)

● 内容

- ・海なし県からも、身近な物が河川を流れ海洋に漂着する可能性を学習
- ・海洋漂着ごみの生物に与える影響やごみ削減方法の検討
- ・児童の日常生活における意識定着効果を想定したエコバッグ作成体験等

● 今年度の実績

- ・31回開催（218名参加） ※R5.2末現在

プラスチックごみ対策の取組

② エコたび栃木プロジェクト

●目的

修学旅行という一生の思い出になる場面において、栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言の本旨である「**プラスチックとの上手な付き合い方**」に取り組んでもらうことで、**使い捨てプラスチックの削減意識の定着**を図るとともに、**観光関連のごみ削減につなげる**ために、小学校等の修学旅行を対象とした「エコたび栃木プロジェクト」を行っています。

●応募の対象

・修学旅行中に以下の「**3つの環境にやさしい取組**」を実施する。

- (1) 歯ブラシ、歯磨き粉の持参・使用
- (2) マイバッグ、マイボトル（水筒）の使用
- (3) 食べきり・食べ残しの削減

●エコたびチャレンジ

本県が定めた**3つの取組以外に、各々の学校が設定した独自のエコ活動を修学旅行中に実施する取組**です。優秀校には表彰状を贈呈します。

●今年度の実績

115校（6,697名）が参加、うち48校が「エコたびチャレンジ」に参加



エコバッグを使用しての買い物

プラスチックごみ対策の取組

③ スポーツGOMI 拾い大会

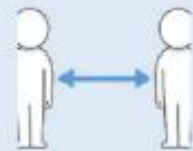
ごみ拾いの様子



スポGOMIルール



1チーム3~5名



チームは10m以内で行動



走らない



制限時間60分



競技エリアは当日発表



ごみの量と種類で
ポイントを算出

●目的

ごみ拾いにスポーツの要素を加え、家族や仲間と楽しみながらチームでごみ拾い、その中で**県民のリサイクルや適正処理に関する機運を高めることを目的にしています。**

●スポGOMIとは？

あらかじめ定められた競技エリアで、制限時間内にチームワークでごみを拾い、ごみの量と種類でポイントを競い合うスポーツです。

●今年度の実績

- ①壬生大会・・2022.5.14 (土) 63名参加
- ②宇都宮大会・2022.8.21 (日) 57名参加
- ③小山大会・・2022.9.11 (日) 83名参加
- ④真岡大会・・2022.9.25 (日) 57名参加

合計 260名参加

プラスチックごみ対策の取組

④ プラスチック代替製品マッチング事業

●目的

「プラスチック代替製品」に係る情報が少ないことから、**製造業者、販売事業者及び使用者のマッチング機会を創出し**、県内のプラスチックごみ対策に向けた機運醸成等を図ることを目的に実施

●事業内容

- ・(株)足利銀行が主催する「ものづくり企業展示・商談会 2022」において、特設ブースを設置し、**「プラスチック代替製品展示・商談会」を実施**（約1,000名来場）
- ・**県内外のプラスチック代替製品を扱う企業20社が出展**



プラスチックごみ対策の取組

⑤ ワンウェイプラスチックリデュース事業

●目的

大規模イベントにおいてワンウェイプラスチック（使い捨てプラスチック）容器を使用しないビジネスモデルを創出し、「With コロナ」社会における新しい生活様式とプラスチックごみの排出抑制を両立させることを目的に実施

●事業内容

- ・ 県内の大規模イベントである「ベリテンライブ2022」において、**ワンウェイプラスチック容器を使用しない飲食物を販売**（9/10,11の2日間開催；参加者約22,000名）
- ・ 併せて、排出されるごみの**リサイクルが図られる取組を実施**（写真1：分別の徹底）
- ・ また、環境配慮PRブースの設置や特別番組を放送し、**県民のプラスチックごみ対策への行動変容を促進**（写真2：会場内にプラごみゼロに関するPRブースを設置）



写真1：エコステーション



写真2：PRブース

ワンウェイプラスチックリデュース事業 実績報告書（概要版）

令和5（2023）年3月 栃木県環境森林部資源循環推進課

1. ワンウェイプラスチックリデュース事業の概要

大規模イベントでは飲食の際に使い捨てプラスチックが多く使用されている。そこで、使い捨てプラスチック容器を使用しない飲食物の提供方法や排出されるごみのリサイクルについて実証を行った。

➡ 紙製容器の調達方法や排出されるごみのリサイクル方法等の得られたノウハウを他のイベント実施者に横展開し、使い捨てプラスチックごみを削減や資源循環を推進する。

2. 実証事業を実施したイベント

- イベント名：RADIO BERRY ベリテンライブ 2022Special
- 開催日：2022年9月10日（土）・11日（日）
- 開催場所：栃木県井頭公園・運動広場／栃木県真岡市
- 参加人数：22,000人（2日間延べ）



3. 実証結果まとめ

	使い捨てプラスチック容器を使用しない飲食物の提供	排出されたごみの分別収集・リサイクル	イベント来場者への周知
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・使い捨てプラスチック容器を使用しないことを飲食店の出店条件に設定・紙製容器の販売会社者を準備（持込み容器の使用も可能とした）・飲食店にヒアリングを行い、必要な紙製容器のラインナップを作成	<ul style="list-style-type: none">・分別方法やリサイクル方法について、開催地の自治体や処理業者と事前調整・来場者がごみをわかりやすく分別して出せるエコステーションの設置・エコステーションに分別スタッフを配置	<ul style="list-style-type: none">・特設PRブースの設置・海洋プラスチックごみ問題に関する動画の放映・大型ビジョンで分別方法を周知
効果	<ul style="list-style-type: none">・プラスチックごみを約1,400kg削減・来場者アンケートでは紙製容器の使用感はプラスチック容器と変わらないとの回答多数	<ul style="list-style-type: none">・来場者に分別の徹底を呼びかけることで、分別が適切に行われ、全量リサイクル実施	<ul style="list-style-type: none">・参加者1人あたりごみの排出量の減少（0.18kg→0.14kg）・適切な分別によるリサイクルの促進
課題	<ul style="list-style-type: none">・紙製容器はプラスチック容器より高価な傾向・飲食店からは飲料の容器については、販売時の見栄えを意識し、透明なプラスチック容器がよいとの声があった	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍などの理由により、予定していたマテリアルリサイクル（^①）から、サーマルリサイクル（熱利用）に変更	—
まとめ	<ul style="list-style-type: none">・プラスチックごみ削減に一定の効果があつた・透明であることなどのプラスチックの特性が必要な場合は、バイオマスプラスチック等の使用を検討する必要がある	<ul style="list-style-type: none">・排出されるプラスチックごみの高度なりサイクルが可能となった・アフターコロナにおいては、マテリアルリサイクルできるごみの種類が増加することが期待される	<ul style="list-style-type: none">・イベント来場者に海洋プラスチックごみ問題について理解を促し、イベントの中でごみの削減とリサイクル推進に取り組んでもらうことができた

4. 使い捨てプラスチックを使用しないイベント開催にあたっての参考情報

(1) ワンウェイプラスチックリデュース事業 実績報告書（本編）

本事業の実施報告書の本編です。より詳しい情報が記載されています。

URL：<https://www.pref.tochigi.lg.jp//d05/documents/20230217160907.pdf>

(2) 栃木県 プラスチック代替製品カタログ

県内外のプラスチック以外の素材を用いた製品やバイオマスプラスチック製品をまとめたカタログです。

URL：<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d05/documents/20221202160206.pdf>

(3) 動画「栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言～プラスチックと上手に付き合おう！～」

特に若年層世代の不要なプラスチックごみ削減意識を醸成するために作製した普及啓発用動画です。クイズにも挑戦できる動画です。

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=UQXcq1GyVTQ>

